

シンポジウム

「社会的弱者、特に外国人と女性の視点から学ぶ減災」

主催：徳島大学大学院総合科学教育部 プロジェクト研究Ⅰ 佐藤・中山・山本班

1. 目的

東日本大震災での被災地支援を通して、避難所生活における社会的弱者が抱える問題が浮き彫りになった。本シンポジウムは、聴衆の方々に社会的弱者が震災後の生活において抱える問題点や困難な状況を意識してもらい、避難後の活動に繋げていくことを目的とする。また、本シンポジウムを通して、いつ南海トラフ巨大地震が発生しても、避難所での生活における社会的弱者への対応ができることを目標とし、その実現のために必要な課題を提言することも目的とする。

2. 日時

平成 28 年 11 月 13 日（日）13～16 時

3. 場所

徳島大学常三島キャンパス総合科学部 2 号館地域連携大ホール（けやきホール，徳島市南常三島町 1-1）

4. シンポジウム概要

本シンポジウムは二部構成とし、第一部は東日本大震災の被災地で活動されていた 2 名の方に、被災地の現状や避難や生活における問題点などについて、それぞれの立場から基調講演を行っていただく。第二部は、社会的弱者の中でも特に外国人と女性の避難所生活に焦点を絞り、東日本大震災など過去の実際の事例をもとに、外国人や女性が避難所で生活をしていくうえでどのような弊害や懸念があり、それらを防ぐためにはどのような準備が必要かについて、クリッカーによるアンケートとパネルディスカッションを行う。

5. 参加料・事前申し込み

入場料・参加料不要、事前申し込み不要

6. 対象

徳島大学学生、及び徳島県の高校生・社会人

7. プログラム

13 : 00 開演の挨拶（中山先生）

13 : 05 第一部【基調講演】

・土屋和隆氏（徳島県県土整備部）

「被災地復旧計画遅れと現状について」

・大平久美子保健師（福島県白河市子ども支援課）

「保健師からみた震災が女性と子どもに与える影響～放射線被害を踏まえて～」

徳島県職員で県土整備部に所属しておられる土屋氏には、宮城県気仙沼市での3年間にわたる活動から、避難所から仮設住宅そして復興住宅へ被災者が復旧計画により移っていく途上での状況を、社会的弱者の視点も交えて講演していただく。また、保健師で子ども支援課に所属しておられる大平氏には、震災後の福島県白河市における乳幼児や保護者への対応をされてきたご本人の経験を交えて、乳幼児や母親の視点から見る震災後の生活の課題点について講演していただく。

14 : 30 休憩

14 : 45 第二部【パネルディスカッション】

「社会的弱者、特に外国人と女性の視点から学ぶ減災」

東日本大震災など過去の実際の事例をもとに、外国人や女性が避難所で生活をしていくうえでどのような弊害や懸念があり、それらを防ぐためにはどのような準備が必要なのか。これらの課題について、聴衆へのクリッカーによるアンケートをもとにパネルディスカッションを行い、会場の方々に理解を深めてもらう。

16 : 00 アンケート

地域の方々の震災後の生活における認識を調査すること、および本シンポジウムに対する参加者の評価のために、クリッカーによるアンケートを行う。

16:15 閉式

8. 後援

四国放送株式会社、NHK 徳島放送局、一般社団法人徳島新聞社、株式会社エフエム徳島、徳島県教育委員会